

2016 度 小委員会活動成果報告

(2017 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	企画戦略小委員会	主 査 名：鵜 心治 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鵜 心治 主 査 名：鵜 心治
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を積極的に推進することを目的とする。</p> <p>・上記目的達成のため、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：	
	鵜 心治 (山口大学)、饗庭 伸 (首都大学東京)、石村 壽浩 (ランドブレイン(株))、栗山 尚子 (神戸大学)、樋口 秀 (長岡技術科学大学)、三島 伸雄 (佐賀大学)、市古 太郎 (首都大学東京)、加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所)、川崎 興太 (福島大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>(1) 東日本大震災報告書編集 WG (開催回数 4 回) (主査：加藤先生) 2017 年 3 月に刊行が予定されている東日本大震災合同調査報告書・都市計画委員会担当巻について、都市計画分野における目次構成の検討や編集作業を行う。</p> <p>(2) 基幹的分野：都市防災 WG (開催回数 2 回) (主査：市古先生) ネパール地震など海外での大規模自然災害からの復興研究について、計画学的観点からの情報共有と論点整理をおこなう。また東日本大震災合同調査報告書 WG と連携し、都市計画・防災システムの観点からの復興 5 年の論点整理と公開討議を行う。</p> <p>(3) 環境都市計画 WG (開催回数 5 回) (主査：川崎先生) 東日本大震災および福島原発事故後における環境都市計画に関して調査・研究を進め、2016 年度末にはその成果についてシンポジウムを通じて公開する。</p> <p>(4) 研究協議会企画運営 WG (開催回数 4 回) 2016 年 8 月に福岡で開催される大会・研究協議会開催へ向けての論点整理と意見の集約を行う。</p>	
2016 年度予算	300,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 東日本大震災・福島原発事故と環境都市計画シンポジウム【2017.3.10 予定】 (環境都市計画 WG)
大会研究集会	1. 大会研究協議会：グローバルな人口流動と都市デザイン 同 資料

対外的意見表明・パブリックコメント等	
<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市計画部門研究協議会「グローバルな人口流動と都市デザイン」を企画し、運営を支援した。 2. 新規研究活動テーマの検討、立案、実施 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア都市グローバル人材育成など「国際化」に対応した研究テーマの立案 ・熊本地震に関する「防災」研究・委員会のあり方等についての検討・立案 3. 出版、講習会、シンポジウム等の企画、立案、実施へ向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災・福島原発事故と環境都市計画シンポジウムの開催【2017.3.10 予定】（環境都市計画 WG） ・『(仮) 人口減少・大災害時代のための地域文脈論の構想』（創造的地域文脈小委員会）の出版支援 など 4. 各小委員会ホームページの管理
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	特になし

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。